

あそびのまなび

「言葉のかけ方」

子どもに言葉をかけることが良いことだとは思っても、実際どのように言葉かけを行うと良いのでしょうか。今回は、大人が子どもに言葉をかける時のポイントや、その意義について触れたいと思います。

まねをする

子どもが指さして「あー」と言えば、大人も同じように指さしをして「あー」と言います。拍手をしていれば、大人も同じようにやってみます。

相手の行動や言葉をまねするというのは、相手に興味を持ち、相手がどういう状態にあるのかを感じ取っているからできることです。これが、共感すること、やり取りすることの基礎となります。

・お世話をしながら ・からだの動きに合わせながら

たとえば、おむつを替える時に「きれいきれい。気持ちいいね。」など声をかけませんか。食事の際には「お口、あーん」、「ごろん」と言って寝転がるなど、お世話をする時や一緒に遊ぶ時は言葉が出やすく、言葉かけをしやすいものです。また、「パチパチ」「トントン」などの擬音語、擬態語は自然と出やすい言葉が多く、リズム感があって耳に残りやすいので、擬音語などを使うことは、関わりを持つのに良いかもしれません。



ゆっくり、はっきりと 話しかける

大人でも、早口で言われるより、ゆっくり、はっきり話してもらう方が理解しやすいと思います。子どもは音声を処理し、理解するスピードが大人よりも遅いため、次々言われると伝わりにくくなります。言葉をかける時にちょっと意識するだけで、ずいぶん伝わり方は変わります。

子どもへの 言葉かけの ポイント

子どもの行動や 気持ちを代弁する

子どもがミニカーで遊んでいるところに、大人が「ブーブー」と言葉を添える、「〇〇できたね」「楽しいね」「痛かったね」「びっくりしたね」…自分の感じていることを言葉にしてもえらると、子どもは安心感を抱きます。こういった言葉かけは、子どもの感性や表現を豊かにします。



子どもの興味をとらえる

子どもにとって興味のないところで言葉をかけても、その気持ちや内容は伝わりにくいと思います。言葉をかけた時に、子どもはどう反応しているでしょうか。表情がぱっと明るくなる、大人の言うものをじーっと見る、全く違うものに興味うつるなど、実にいろいろな反応を示していると思います。そういった反応を手がかりに、その子が興味を持てるような言葉や、「〇〇すごいね」といった感動を共有できるような言葉を見つけ、そのような言葉を多くかけてあげると良いと思います。



参考：中川信子著「ことばをはぐくむ」ぶどう社

言葉をかける時のポイント…それは何も特別なことではなく、いつもやっていることだと言えます。様々な研究によると、お母さんの子どもに対する言葉かけは、誰に教えられるわけでもなく、子どもの発達に応じて少しずつ高度に、複雑に、その時期一番適した言葉かけをすることができるそうです。人と人とが関わっていくための手段の一つとして言葉がありますが、話し言葉でなくても、人の気持ちを伝えるものはたくさんあります。赤ちゃんが言葉でない形の声を出したり、泣いたりした時、お母さんはそれがどういう意味か分かることがあると思います。場面や子どもの表情、振る舞いなどから、どんな気持ちで声を出しているか理解しようとしているからですね。子どもの反応をよく観察し、子どもと気持ちを共有しようとする、そういった構えが言葉をかける時には大切なのだと思います。